



「健康コラム」

病気と予防のお話し ～JCHO 船橋中央病院から～

第1回 歯周病と全身の病気

歯科口腔外科 高橋喜久雄先生

皆様、お元気でお過ごしのことと思います。これから時々紙面をお借りして船橋中央病院の医師が病気と予防について書かせて頂くことになりました。

今回は歯周病（歯槽膿漏）と全身の病気についてです。歯周病は歯肉が腫れて膿が出たり歯が揺れてきたりするものですが、最近はこれが全身の病気と密接な関連があることが分かってきました。例えば歯周病の菌によって動脈硬化が進むことが知られており、心筋梗塞や脳梗塞のリスクが高まります。また、糖尿病をもっている方は歯周病によってそれが悪化することも分かってきました。歯周病を起こす細菌は腫れた歯肉などから簡単に血管の中に入り、持っている内毒素や残骸が全身の病気を引き起こすのです。多くの研究では歯周病を持つ妊婦は早産や低体重児出産の危険性が高くなることも報告されています。

日本人は20歳を過ぎると、ほとんどの人が部分的な歯肉炎や歯周病を持っています。歯周病は単にお口の中の病気というだけではなく、全身に大きな影響を与えます。放置しないで近所の歯医者さんなどで定期的に検査や治療を受けるようお願いいたします。